

こんな言葉、使っていませんか？

ホモ
男性同性愛者を侮蔑する言葉として用いられる。

レズ
女性同性愛者を侮蔑する言葉として用いられる。

オカマ／おんなおとこ
「身体の性」が男性でありながら「女っぽい」表現をする人に対して用いられる。

オナベ／おとこおんな
「身体の性」が女性でありながら「男っぽい」表現をする人に対して用いられる。

厚生労働省の定めた男女雇用機会均等法及び事業主が適切に対処するための指針の中で、同性間やLGBTに対する差別的な言動もセクハラと明示されました。LGBTを揶揄する差別用語だけでなく、LGBTをいらないものとした冗談や無意識の発言に傷つく人がいます。また、「今までにホモネタやオカマ・おとこおんななどの差別用語を見聞きしたことのある児童」は85%にもものぼります(出典: ReBit出張授業アンケート)。差別用語を使ったり、LGBTを揶揄するような表現を用いたりすることで、無意識のうちに誰かを傷つけてしまったり、「この人には受け入れてもらえないかも…」と思われる可能性があります。

COLUMN

「カミングアウト」ってなに？

カミングアウトとは、これまで公にしていなかった自らのことを表明することです。自身のセクシュアリティを他者に打ち明けること、という意味で用いられる場合もあります。セクシュアリティに限らず、自身のことを他者に開示することはとても勇気のいることではないでしょうか。「この人なら大丈夫かな」「嫌われないかな」「変だって思われるんじゃない…」など、誰にならカミングアウトしても理解してもらえるか、伝えた後の関係性が崩

Voice 私たちの声

「家族にカミングアウトをしたいけれど、関係性が壊れてしまうのではと考えると言い出しにくい」
(20代・バイセクシュアル)

カミングアウトしたいけど…

「学生の頃、先生にカミングアウトしたことはなかったけれど、『女の子らしくなさい』などと言われたことはなくて、居心地がよかった」
(20代・F+M)

Voice 私たちの声

「将来、戸籍の性別が同性のパートナーと暮らしたいと思っている。結婚はできないので、子どもを持った場合の親権や、税金の控除、どちらかが病気になった場合を考えると不安」
(20代・F+M)

将来が気になる

「親戚から『孫の顔見せて親孝行しないとね』と言われ、身体の性別が女性で女性を好きになる自分は親孝行ができないんだと、ものすごく落ち込んだ」
(20代・F+X)

COLUMN

れてしまうのでは、と思い悩むことも少なくありません。そんなとき、この情報誌を目に見えるところに置くなどしてLGBTに理解があることを表明してくれる、あるいはLGBT以外の多様性に理解があることを表明してくれる人には、打ち明けやすくなるそうです。もし、打ち明けられたら是非「話してくれてありがとう」という気持ちを伝えてください。それだけでも、カミングアウトした人は安心します。

自分の性を隠して働く心苦しさ

例えば就職活動では、セクシュアリティをカミングアウトするべきか、こころの性の服装で面接に行つて希望先の会社に受け入れてもらえるか、といった悩みを抱えることもあります。そのため、LGBTであることを隠して就職活動をする人も少なくありません。「カミングアウトしても社会に受け入れてもらえないかも

しれない」という不安だけでなく、LGBTの大人がどんな生き方をしているのか、というロールモデルが可視化していないということも、LGBTの就活生たちを悩ませています。LGBTの人が約13人に1人いるということは、就活生の中にもLGBTの人がいます。性別欄で男女どちらに丸を付けるか悩んだり、あるいは働き始めたけれど同性のパートナーと暮らす上で福利厚生制度が使えなかったり、何気ない日常の会話において「連休中どこか行つた？」「彼女(彼女)はいるの?」といった自身のセクシュアリティやパートナーについて隠さねばならないなどの状

況に直面することが多くあります。また、あらゆる制度や法律の中でLGBTの存在が想定されていないことで、困ることも少なくありません。同性間での婚姻、家屋の所有権、医療上の同意権、公営住宅への入居に関して、税金の控除、養子縁組・里親制度等、異性愛カップルであれば利用できる制度が利用できない場合もあります。異性との結婚の予定を親族からしつこく聞かれるなどといったソフトの面で困ることもあり、法律や制度、社会全体への普及啓発、両方への取り組みが必要とされています。

Voice 私たちの声

「LGBTの大人に会ったことがなかったので、仕事をしたり、家庭関係や友人関係を築いたりなどの生活している姿をイメージできなかった。将来に対する不安がいつもあって、自分自身の将来に対して具体的なイメージがもてなかった」
(20代・ゲイ)

仕事に対する不安

「職場で恋人について聞かれて、彼女を彼氏に置き換えて話した。嘘をつくこと自体も、相手に嘘をついている罪悪感もあって辛かった」
(20代・パンセクシュアル)

LGBTの象徴、レインボーフラッグ

虹色の旗、レインボーフラッグは「多様性」を表しており、世界中でLGBTの象徴となっています。もともとは1978年に米国サンフランシスコでゲイの権利を主張する運動の中で考案されたものです。現在LGBTの象徴として用いられているレインボーは赤・橙・黄・緑・青・紫の6色です。日本でも、LGBTに関するイベントなどで頻繁に掲げられています。フラッグ以外にも、アクセサリやグッズなどが作られています。LGBTに理解があるこ

との印であるこの6色のレインボーのものを身に着けることで、LGBTの人はあなたに安心して相談しやすくなるかもしれません。

